

産・学・官の連携で都市と地域の未来をひらく

第21回 新都市社会技術セミナー 開催報告 (1/2)

令和6年10月8日(火)に、大手前合同庁舎(近畿地方整備局)において、第21回新都市社会技術セミナー(主催:新都市社会技術融合創造研究会)を開催し、Web聴講を含めて52名が参加し、各研究成果の発表が行われました。

- 新都市社会技術融合創造研究会(委員長:大西有三京都大学名誉教授)は、社会資本の整備、維持管理に関わる技術の普及を目的として、平成14年度に設置され、産・学・官の連携によって様々な技術研究プロジェクトに取り組んでいます。
- 平成15年のセミナー開催から、今回で第21回目を迎えました。
- 産:24名、学:2名、官:26名の計52名の方々が聴講されました。
- なお、本セミナーの講演資料につきましては、新都市社会技術融合創造研究会のホームページに掲載しておりますので、あわせてご覧ください。



～講演プログラム～

開会挨拶 大西 有三 委員長(京都大学 名誉教授)

講演1 『道路地下埋設物の三次元データ取得方法の検討
新規 およびその施工・維持管理における利活用に関する研究』 R6～R8

プロジェクトリーダー 小山 倫史
(関西大学 社会安全学部 教授)

講演2 『再生骨材を利用した中温化アスファルト混合物
新規 の社会実装に向けた、現状課題の抽出から対応策の検討、実大載荷試験に舗装の耐久性評価に至るまでの総合的研究』 R6～R8

プロジェクトチーム 瀬尾 彰
(京都大学 経営管理大学院 特定教授)

講演3 『ハイブリッド型繊維補強コンクリート舗装に関する
完了 研究プロジェクト』 R3～R5

プロジェクトチーム 佐々木 庸志
(奥村組土木興業(株) 技術部 技術マネージャー)

講演4 『長寿命コンクリート舗装の設計・施工・維持管理
完了 を行うためのマニュアル作成及び高耐久目地構造の開発』 R3～R5

プロジェクトリーダー 小梁川 雅
(東京農業大学 地域環境科学部 教授)

閉会挨拶 小林 潔司 副委員長(京都大学 特任教授)

◆大西委員長開会挨拶(概要)

新都市社会技術セミナーも21回目になりました。これも皆様方のおかげ。この研究会は近畿地整で土木の技術的な課題を掘り起こし、大学の先生、社会の方々と2～3年で課題を解決していくもの。最初の2件は本年度からの事業、後の2件は昨年度に完了した事業。是非今日聞いていただき、こういう点を検討して欲しい等の意見を頂きたい。

◆小林副委員長閉会挨拶(概要)

私はこの研究会には一つの夢がある。近畿を実装の研究のメッカにしたいというのがこの研究会のスタート。実装は言うが易く、行うは、中々難しく、本気度が問われる。研究のプロジェクトは3年で終わるかもしれないが、その先実装にいくまでは、まだまだ道のりはある。大学もそこまでのお付き合いする覚悟が必要。



大西委員長 開会挨拶



小林副委員長 閉会挨拶

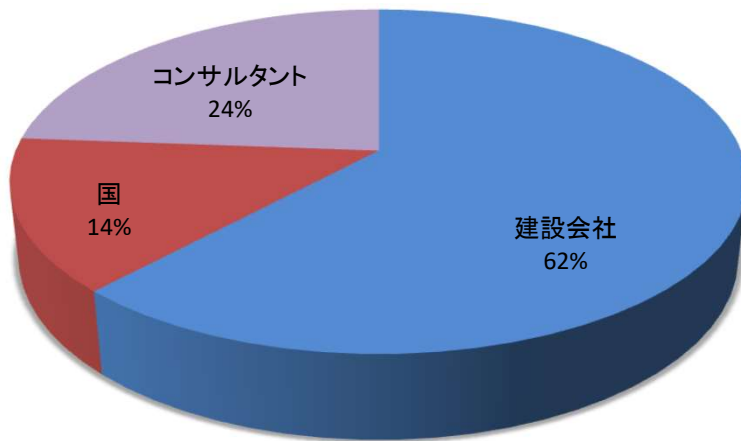
産・学・官の連携で都市と地域の未来をひらく

第21回 新都市社会技術セミナー 開催報告（2／2）

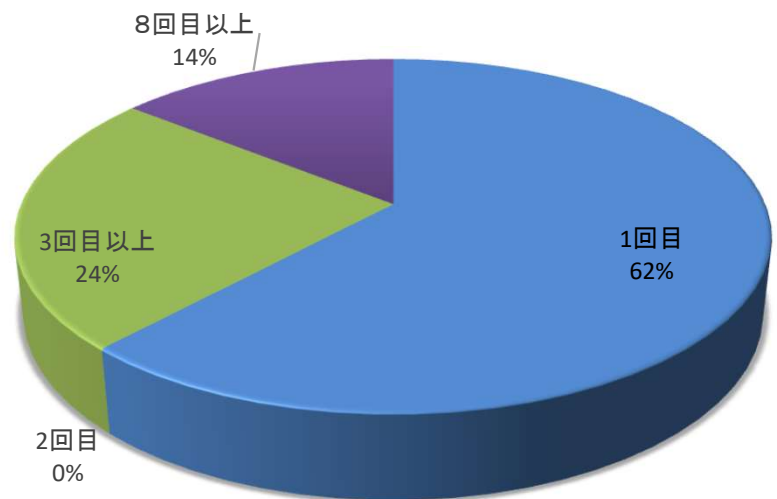
聴講者アンケート結果

新都市社会技術融合創造研究会では、研究会発展のため、聴講者に対し、本セミナーに関するアンケートへの協力をお願いし、聴講者58名のうち、21名にご協力いただくことができました。アンケートへのご協力、ありがとうございました。

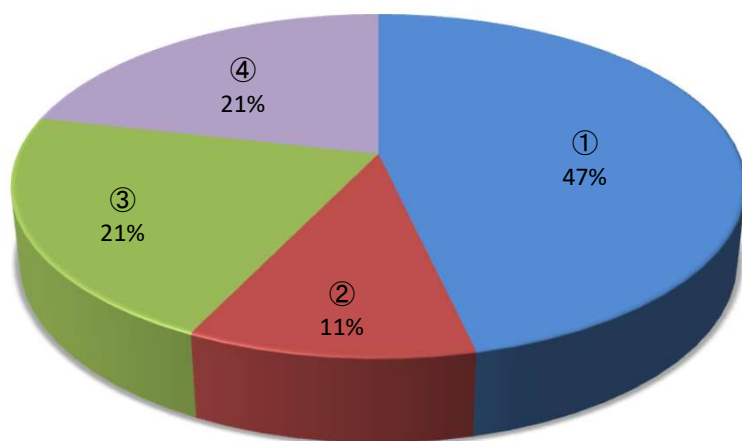
<1. 聴講者の所属>



<2. セミナーへの参加回数>



<3. 興味のあったプロジェクト>



- ① 道路地下埋設物の三次元データ取得方法の検討およびその施工・維持管理における利活用に関する研究
- ② 再生骨材を利用した中温化アスファルト混合物の社会実装に向けた、現状課題の抽出から対応策の検討、実大載荷試験に舗装の耐久性評価に至るまでの総合的研究
- ③ ハイブリッド型繊維補強コンクリート舗装に関する研究プロジェクト
- ④ 長寿命コンクリート舗装の設計・施工・維持管理を行うためのマニュアル作成及び高耐久目地構造の開発

<4. その他の意見>

- 良かった点
 - ・新技術に対する取り組みや内容を知る事が出来ました。
 - ・新技術について新たな知見を得ることができた。
 - ・会場スペースにゆとりがあり良かった。
 - ・スライドが映される画面が大きく見やすかった。
- 改善すべき点
 - ・都市とゆうキーワードをもう少し活用して欲しい。
 - ・実用性が十分検討されていないものがあった。
 - ・費用対効果が明らかでないものがあった。
 - ・前面のモニターだけでなく後部席の参加者用に壁側にある小型モニターを活用しても良かったと思う。